

谷村地区

其の四

法能

浄土真宗

宝泉山専徳寺

西本願寺末

本尊由緒

阿弥陀如来 木像立体 像長43cm、肩幅14cm、裾張り14cm、面長9cm、昭和五十年より約六百年前のものと推定されている。「宗円の時明暦二丙申年三月十八日木仏寺号免許」と甲斐国志に記されている。

開山履歴

当山開創は貞観二年十二月八日(清和)祭空律師による。

真宗開基は弘安三年二月十五日(後宇多)浄禅

寺釈祐専上人である。

弘安年間まで天台、真言、以後浄土をかね祐専

上人蓮如上人に従い浄土真宗となる。

結構規模

境内地、一反十二歩

本堂、9K×9K、樺丸柱で彫刻があり向拝造り寄

せ棟トタン葺向拝の竜の彫刻は一本木によるすかし彫りで、50cm×40cmの立派なものである。なお向拝の左右同形一對の賓頭盧尊者は、寄せ木坐像で像長80cm、膝張り70cm、面長³cmある。

力持ちを象徴し法薬を与える。年代不詳なれど天保年間のものと推定。

庫裡、葺入母屋。近く改築の予定。

歴代住職



専徳寺 本堂

- 一世釈祐専坊―二
- 世釈了円法師―三
- 世釈長円法師―四
- 世釈法泉法師―五
- 世釈宗円法師―六
- 世釈照円法師―七
- 世釈円達法師―八
- 世釈円空法師―九
- 世釈円誓法師―十
- 世釈円諦法師―十
- 一世釈円浄法師―
- 十二世釈円称法師―

行事

三朝祈禱会、春秋彼岸会、永代経(四月)宗祖誕生会(五月)宇蘭盆会、報恩講(十二月)、除夜法要。

古器什器宝物

瑤囊鈔目録八卷、文安年間刊行。

蓮如上人御梁筆

元信の軸一軸

国直の美人画一軸



専徳寺 本尊



賓頭盧頗羅隋

玉川

曹洞宗 広沢山林照院

円通院末

本尊地藏菩薩

開山祖月吟教和尚 円通院二世、正徳元年示寂、境内除地八畝

法能

曹洞宗 医王山東光寺

円通院末

本尊薬師如来

開山覚海教和尚 円通院五世、寛延四年五月示寂、境内除地老反六畝

此寺旧禅門夫婦の者住す、円通五世覚海和尚其子を弟子とし成長の後此寺に住職せしむ故に師を推して開山とす。禅門夫婦の者は分地して農家となる其子孫今に存す。

(以上甲斐国志による)

戸沢

浄土真宗 宝池山正蓮寺

西本願寺末

本尊由緒

阿弥陀如来 木像立体 像長75cm、裾張り20cm、面長12cm、

の田の西北の高地に光りある如し。そこは奇獣の多く止りし処なり。人あやしみてみれば、今まであらざる石二つあり。人云是奇獣の靈なりとて、その靈石のありし所に一堂を建て池の堂と名づけ、田光山円融寺と称し正蓮寺の興起となす。」

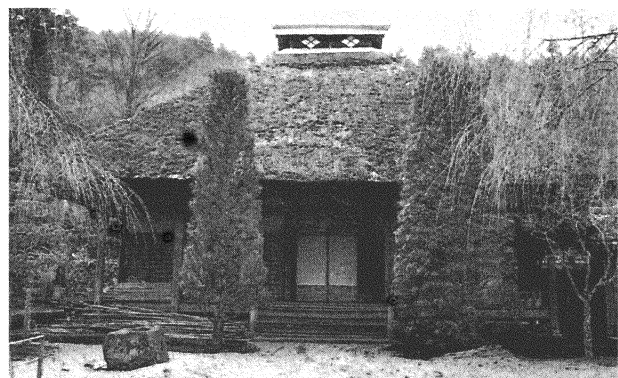
開山履歴

天長初年清和天皇子孫甲斐源子新羅三郎義光三代目逸見黒源太清光の八男曾根禅師房嚴尊の二男僧となり、円融寺に住持し旭遷と称しだ天台の本山に請うて寺号を円融寺と賜わり、高僧恵信僧都自画の弥陀如来を安置し一寺をなし、近村の老人によって田光山と名づけられた。

寛喜二年五月六日(一二三〇年)の夜、夢に本尊靈告あり、相州国府津に末世相応の靈法を弘通し給う明師まします。かしこにいたりて教化をうくべし」とそのお告により同所に至り、親鸞上人の御教化を蒙り安心領納して専修念仏の行者となり、天台宗を改め浄土真宗となし、法名を唯善と称し御染筆の九字名号を頂戴した。これより寺号を宝池山正蓮寺と改め、以後累代相続して十八代の現在に至る。従って当山の改宗開山は唯善法師である。

結構規模

〔本堂〕木造寄せ棟造茅葺 9K×75K



正蓮寺本堂

年代不詳、下戸沢志村英仁氏先祖の寄贈による。全金箔で彫刻も優り立派な本尊である。
興起縁由
甲斐国志に「田光山」の山号があるが、これは天台宗田光山円融寺の頃の呼称である。寺記に次のように記されている。

甲州鶴郡砥沢に旧社あり。その由来を尋ぬるに、往昔天長年間此の所に三町余りの池あり水澄みて池底明かなり。四方に樹木繁茂し、春は花を眺め、夏は暑さをさけ、秋は紅葉を見、冬は雪の景よろし。依って近村の者四季に來り、そこに白き兔の形にて大きき鹿の如くなるもの常に池の辺樹木の間をとびめぐる。人見て以て此の池辺の主となす。後彼の奇獣此の処に常に来る老人の夢に天に昇るとしてその後又出でず。その池下に前年より近村の老人方十間余の田を試みたるに、そ

〔庫裡〕木造入母屋茅葺 6K×12K

〔山門〕

〔鐘楼〕鐘は明和壬辰仲春

庫裡奥の間の襖の竹林七賢の絵は大変貴重なものである。

行事

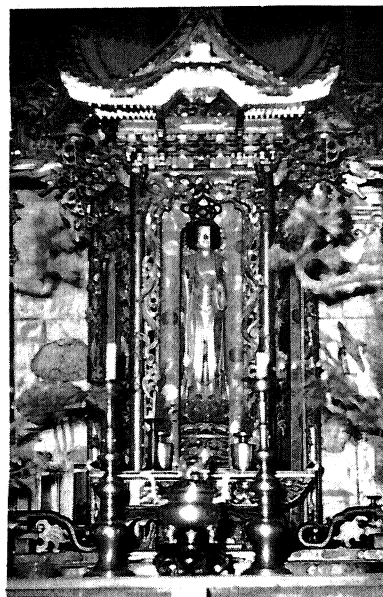
永代経 四月

報恩講 十一月

伝説

興起縁由の中に一部記されている。

なお、「名月の夜やさぞかしの宝池山」の芭蕉の句に関する伝説がある。



正蓮寺本尊